企画展

一日一枚に想いを託して

――絵が語る戦傷病者の労苦

開催主旨

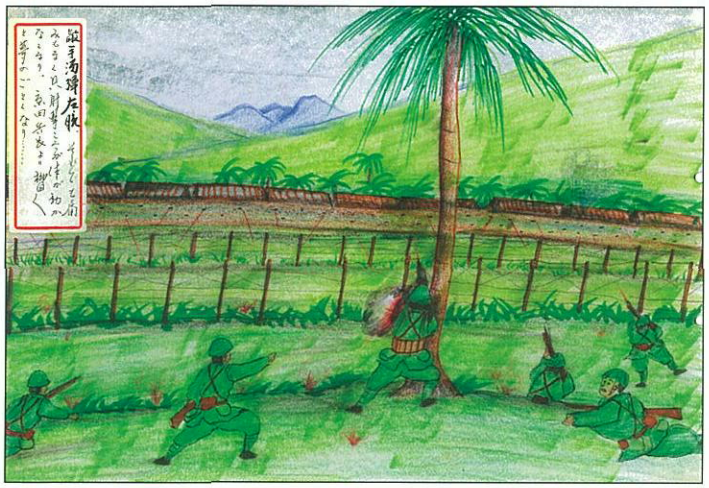
戦傷病者が自らの受傷病の体験を描いた絵は、その労苦を伝える貴重な資料です。ある戦傷病者は当時の記憶をたよりに、戦後一日一枚に想いをこめて数多く絵を描きました。本企画展では、これらの絵の中で、徴兵検査から、入団・出征、戦地での生活、受傷、搬送、治療、復員後の様子を描いた絵を展示いたします。絵にあわせて当館が所蔵する資料や図書もご紹介いたします。

また、当館が新たに制作した戦傷病者とその家族の証言映像を上映いたします。絵とともに、これらの証言映像をぜひご覧下さい。

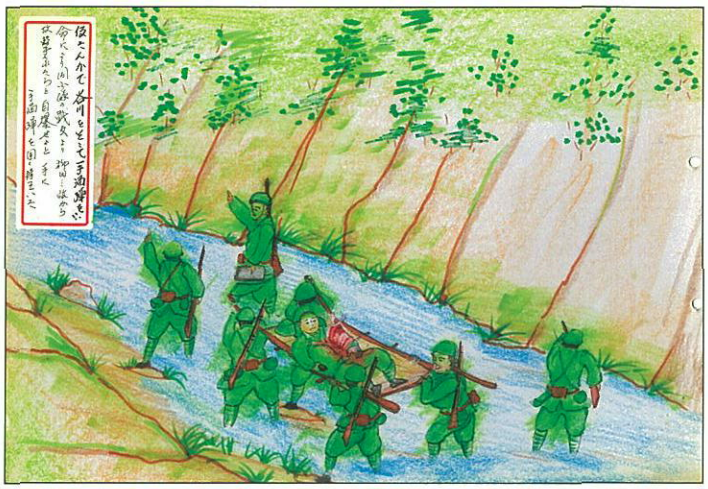
主　　催	しょうけい館
会　　期	平成20年3月5日(水)～4月13日(日)
入 場 料	無料
開館時間	10:00～17:30(入館は17:00まで)
休 館 日	毎週月曜日　※3月31日(月)は臨時開館します。
内 覧 会	平成20年3月4日(火)15:00～17:00
所 在 地	〒102-0074　東京都千代田区九段南1-5-13 共同ビル九段2号館 TEL.03-3234-7821　FAX.03-3234-7826
交　　通	地下鉄[九段下駅]から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線6番出口) JR[飯田橋駅]から徒歩15分
ホームページ	http://www.shokeikan.go.jp
そ の 他	駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

SHOKEI－KAN
しょうけい館
戦傷病者史料館
Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers,etc.

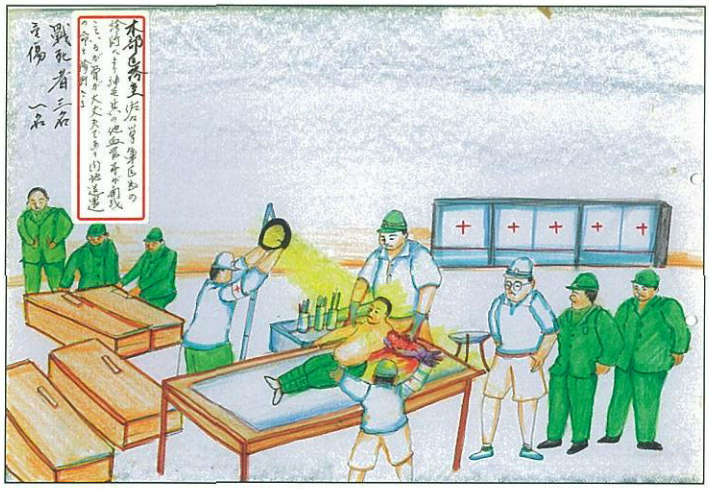
展示絵画［一部］



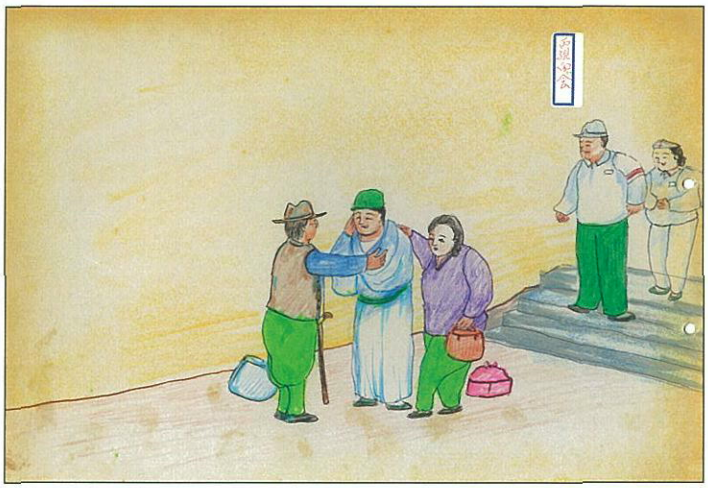
左腕を負傷



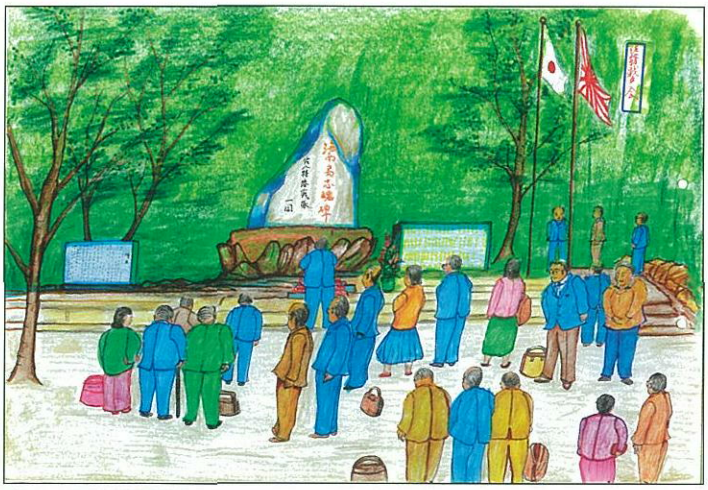
担架で谷川を下る



軍医の診断



両親との再会



戦友会の慰霊祭

【戦傷病者の略歴】

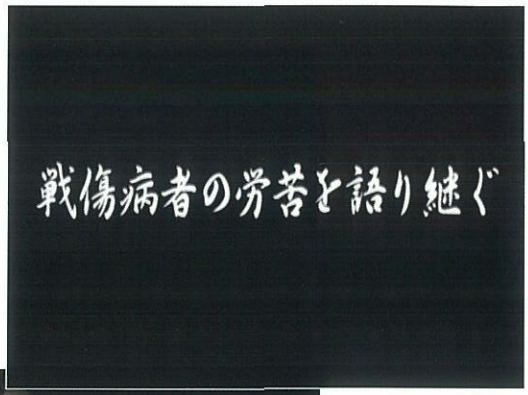
柳田幸敏さんは1942（昭和17）年9月、20歳の時に海軍に入団、1944（昭和19）年11月、中国で左肩と左腕を負傷しました。すぐに手当を受けましたが病院へ後送され、その後、病院船で故郷に戻り、内地の病院に収容され終戦を迎えました。1945（昭和20）年9月に海軍病院を退院し、その後、郵便局に復職し、58歳の退職まで勤務しました。郵便局を退職して60歳を過ぎた頃、戦地での生活を描いた絵を普段より参加していた戦友会に持参したところ、絵を見た戦友の薦めで、その後、たくさんの絵を描くことになりました。

これらは自らの戦傷病者としての戦中の労苦を描いた戦地での受傷の体験だけでなく、亡き戦友への想いをこめて当時の情景を細部にわたり描いた絵です。今回はこれらの絵の中から、徴兵検査から入団、出征、戦地での軍隊生活、受傷、搬送、治療までの体験を描いた絵を展示いたします。

企画上映

今回の新規制作証言映像は、日中戦争で受傷された方から終戦後、シベリア抑留された方まで幅広い時代の中でご苦労なさった方々の貴重な体験を上映します。

●上映時間／10:00～17:00（連続上映）



帰国時に使った背負い袋

『シベリア抑留、そして結核…それを支えた妻』
証言者／﨑野 保己・冨恵　○陸軍　（16分11秒）

関東軍経理部693部隊の軍属として満洲に勤務。昭和20年に臨時召集され終戦を迎える。その後、シベリアのレチホフカへ抑留され、収容先で肺結核を発症。3年4か月の抑留生活を経て帰国。仕事は、病気の再発による入退院の繰り返しで苦労した。妻は洋裁学校に通い、洋裁店を開いて生活を支えた。

体験記／﨑野 保己「シベリア抑留生活の記」
日本傷痍軍人会編『戦傷病克服体験記録』平成12年
﨑野 冨恵「冷たくなった子供を背負って」
日本傷痍軍人会編『戦傷病克服体験記録』平成12年

『四肢を火傷…二度と操縦桿を握れなかった』
証言者／新本 積　○陸軍　（14分19秒）

『三回の入院を乗り越えて』
証言者／池田 克文　○陸軍　（13分49秒）

『一昼夜の恐怖に耐えて』
証言者／南郷 清　○陸軍　（13分31秒）

『小学校を出て先生に』
証言者／藤谷 民男　○海軍　（15分28秒）

関連図書

図書コーナーでは、企画展に合わせて、関連図書を紹介します。

●体験記『生かされて』（池田 克文）

戦争体験の和歌と戦後教員として活動した時書きつづった作品をまとめてある。ブックカバーのさし絵は夫人の作。

●画集『白衣画集』（三上 卯之介）

傷痍軍人が描いた白衣勇士の療養生活。